

<香川県内の経済動向> (2018年11月作成分)

現在の景気：回復している。

3か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：

- ① 着実に持ち直している。
- ② 9月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比1.3%増と4か月連続で増加。店調後は前年比2.1%減と3か月連続で減少。9月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比3.6%増と4か月連続で増加。。9月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）6.5%増と2か月ぶりに増加、ドラッグストアが同10.4%増と42か月連続で増加、ホームセンターが同7.4%減と2か月連続で減少。9月の乗用車新車販売は、軽乗用車で前年比2.7%増加したものの、普通乗用車で同4.1%減、小型乗用車で同8.9%減少し、全体では前年比2.3%減と3か月ぶりに減少。

住宅建築：

- ① 貸家を中心に減少している。
- ② 9月の住宅着工戸数は、分譲住宅で前年比22.8%減少したものの、持家で同7.1%増、貸家で同73.2%増加し、全体では前年比17.5%増と6か月ぶりに増加。

設備投資：

- ① 増加している。
- ② 「全国企業短期経済観測調査結果（2018年9月）-香川県-」における2018年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資）は、全産業で前年度比58.0%増加見込み。

公共工事：

- ① 振れを伴いつつも高水準で推移。
- ② 9月の公共工事請負額は、市町で前年比15.3%増加したものの、国・独立行政法人等で同43.8%減、県で同49.7%減少し、全体では同19.6%減と4か月連続で減少。4～9月の年度累計では前年比3.4%減少。

輸出：

- ① 持ち直しの動きがみられる。
- ② 9月の県内通関輸出額は、前年同月では実績のなかった船舶が251億円になったことから、2か月連続で増加。1～9月の累計では前年比30.3%増加。

生産活動：

- ① 振れを伴いつつも緩やかな持ち直しの動きがみられる。
- ② 8月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比3.9%増加し、101.0と2カ月ぶりに上昇。輸送機械工業（鋼船）、はん用・生産用機械工業（高所作業車・クレーン）などで上昇。窯業・土石製品工業（特殊炭素製品）、電気機械工業（遮断器）などで低下。

観光：

- ① 弱さがみられるものの、堅調に推移。
- ② 9月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比4.2%減と8カ月連続で減少。1～9月の累計では前年比8.2%減少。

雇用情勢：

- ① 好調に推移。
9月の有効求人倍率（季調済）は、前月比0.03ポイント上昇の1.81倍。新規求人数（原数値）は、医療・福祉、運輸業・郵便業等で増加し、サービス業、卸売業・小売業等で減少となり、全体で前年比8.0%減と4カ月連続で減少。

（トピックス）

○瀬戸内国際芸術祭実行委員会は10月30日、来年4月に開幕する同芸術祭について、詳細計画を決めた。参加作家・プロジェクトは30の国と地域から184組となり、うち初参加は55組。最終的には200組以上の作家・プロジェクトが参加する見通し。

瀬戸内の資源をより深く掘り下げるプロジェクトは、倉庫をリノベーションしたカフェなどが人気の高松市北浜町の空き家や空きスペースを利用。香川大などと連携して希少糖やうちわ、盆栽、うどんなど県産品に焦点を当てたアートを展開する。屋島にも作品を設置し、高松港周辺から同芸術祭会期中に特別展を開く県立ミュージアムや北浜町と併せて巡る新たな周遊ルートづくりにつなげる。

前回に引き続き、アジアとの連携もさらに強化。粟島ではベトナム、伊吹島ではインドネシアのアーティストやパフォーマーが作品を披露する。また、大島ではアカデミー賞主演女優賞にノミネートされた経験もあるノルウェーの女優リブ・ウルマンさんらによる芝居も上演する。

県ゆかりの作家では、坂出市出身の南条嘉毅さんが初参加。沙弥島で土を使ったインスタレーションを制作する予定。

今回、チャーター便を利用し、各島をガイドが案内するオフィシャルツアーを初めて設ける。同芸術祭は来年4月26日～11月4日に春・夏・秋の3会期、計107日間開催。前回同様、香川、岡山両県の12の島と高松、宇野港周辺が会場となる。

